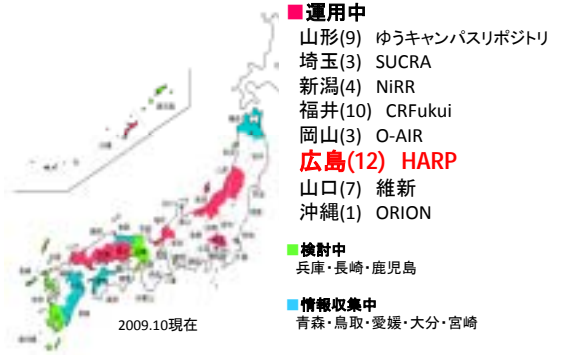


設置事例 広島県大学共同リポジトリ



広島経済大学図書館
辻 水衣

国内の地域共同リポジトリ



HARPの概要

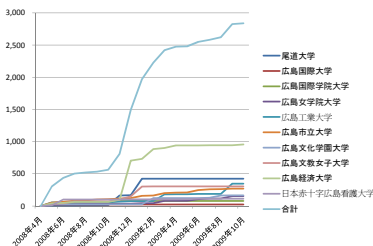
- 広島県大学共同リポジトリ
 - (HARP : Hiroshima Associated Repository Portal)
- 公開・・・2008年4月
- 運営主体・・・広島県大学図書館協議会
- 会費・・・1機関 30,000円/年 (現在12大学)

画面例



登録コンテンツの伸び

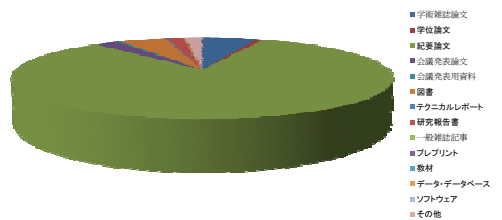
登録コンテンツ総数 3,209件 (2009年11月3日)



(IRDBコンテンツ分析システム <http://irdb.nii.ac.jp/>より算出 (参照: 2009/11/03))

資源タイプ別登録コンテンツ

80%以上が紀要論文



(IRDBコンテンツ分析システム <http://irdb.nii.ac.jp/>より算出 (参照: 2009/11/04))

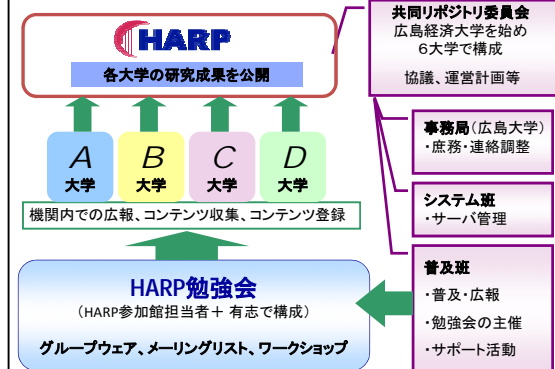
共同リポジトリでよかったこと

- 構築、維持にかかる費用が抑えられる
- 技術・ノウハウを共有できる
- 業務負担が少ない



- 中小規模機関が抱える障壁を除去できた
- (連帯感、盛り上がり、勢いを持てる)

広島県大学図書館協議会



共同だけど一緒じゃない

- スタイルシートで画面デザインを個別化
- 大学ごとにURLが異なる
本学 → <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/13>
- PDFカバーページに大学名を明記

大学ごとの画面デザイン



PDFカバーページ

HARP : Hiroshima Associated Repository Portal



Initiator	広島経済大学 Hiroshima University of Economics
Title	本学 Student-Orientation 図書館情報学の紹介
Author(s)	山本 浩
Creator	
URL	http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/handle/harp/13
Pages	

公開までの経緯

2006.10	実験プロジェクト立ち上げ
2006.12	実験サーバ立ち上げ(DSpace, XooNips)
2007.3	本稼動用サーバ導入
2007.7	広島県大学図書館協議会総会で事業化承認・委員会設立
2007.10	県大図協加盟館に意向調査(13大学が参加の意向)
2008.3	20年度の参加募集(11大学が申請)
2008.4	正式公開
2009.4	比治山大学参加(合計12大学)

このほか、勉強会の開催、研修への参加等を行う

各大学担当者の心境(勉強会当初)



- 予算がないし、人手もないし、無理かな
- とりあえず話だけでも・・・
- 参加して大丈夫？
- 共同でリポジトリってできるの？
- 紀要の登録ができればいいや



右も左もわからず、不安でした

各大学担当者の心境(その後)



- 一つ一つ知識やノウハウを学び、少しずつわかってきて、**だんだん安心した**
- 参加館同士の交流によって、**何とかなるだろう**という気持ちになった
- 勉強会・ML・Googleグループの組み合わせで、**離れていても一緒に仕事をしている**という実感が得られる貴重な場となっている



勉強会・共同リポジトリに参加してよかった！

実現の要因

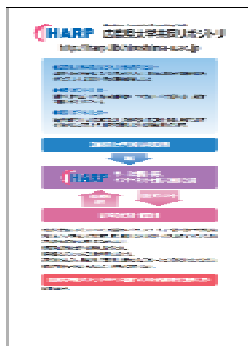


- 広島大学のサポート
- 役割の分担ができた(負担の分散・参加意識)
 - 普及(広島経済大)
 - システム(広島工業大)
 - 広報(広島市立大・広島女学院大)ほか
- 参加大学の前向きな姿勢
- MLでのコミュニケーション
- **CSI委託事業費**による準備(サーバ)

CSI事業



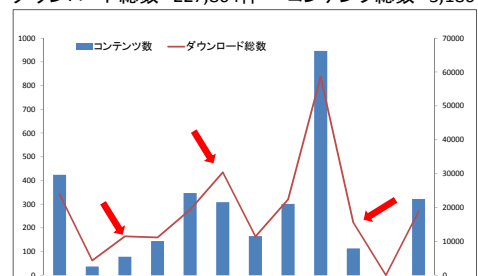
- **代表機関は広島経済大学(唯一の私学)**
- **アルバイトの雇用(White Rose型)**
 - PDF作成・メタデータ作成 → 各大学で一括登録
 - 文献リスト作成
 - コンテンツの著作権確認
- 業務委託(スキヤニング)
- 広報グッズ(チラシ・クリアファイル)



コンテンツの可視化



2008年5月1日～2009年10月1日
 ダウンロード総数 227,864件 コンテンツ総数 3,186件



教員の感想



- **ダウンロード数の多さ**に驚いた
- 思わぬ人から「読んだよ」と声をかけてもらった
- **研究の励み**になる
- 非常に狭い研究領域なので、読まれているのが不思議
- 自信がない論文もある。**ちょっと複雑**

各大学担当者の心境（公開後）



- コンテンツ数は少なくとも、登録しない限り利用者は読めないのので、**小規模大学にもやりがいがある**と感じている
- **教員とのコミュニケーション**がより深くなった
- 積極的に「**どうやったらコンテンツが収集できるか**」ということについて考え、取り組むようになった
- 自館のOPACにリンクを貼ったりして、**登録されたものが利用されるように工夫**をするようにしている

県大図協への影響



- 停滞気味な雰囲気



- 活性化、盛り上がり感（HARP参加館だけ？）
- 連帯感、各館の結びつきの強化
- “自分たち”の事業

HARPの課題



- コンテンツの充実（数も種類も）
- 一時の盛り上がりには終わらせない（継続性）
- 県大図協の中での二分化（12:12:1）
- 新規加盟館の遡及登録は？

ありがとうございました

お問い合わせは・・・si-tsuji@hue.ac.jp まで